NIE実践報告

1．タイトル：進路指導の充実を目指した新聞教育

2．学校名

北海道　室蘭大谷高等学校

3．実践者名（代表者名）

佐藤　寛子（本岡　泰斗）

4．学年

3学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

HRにおける進路指導　１９名

6．単元（本時の学習課題）名

社説ノートの取り組み　１９名

7．目標(狙い)

Ｉ）社説の要約と意見文の作成を通した小論文作成能力の向上

8．評価の視点

文章を正しく把握できているかどうか、正しい日本語が使用できているか、客観的に説得力のある内容で論じることができるか

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

HRにおける進路指導の一環

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

〔手順〕ｉ）ホームルームの係の一つとして、「社説係」を決める。→　ii）社説係は新聞を読み、気になる記事を選んできて、担任に渡す。→　iii）担任が記事をコピーして、クラスに配布。→　iv）生徒は配布された記事をノートに貼る。→　v）二年次はノートの半分に要約と自分の意見を書き、三年次には自分の意見を一ページに書かせる。→　vi）担任は、コメントをつけてノートを返却する。

〔説明〕週の初めにコピーを配り、提出期限は金曜日としました。二年次はコラム、三年次は社説を、政治、経済、地域の情報と、ローテーションで内容がかさならないよう選ばせました。じっくりと一つの記事について書くということを目的とせず、広く、浅く、さまざまな情報を収集する意味で、書き直しはさせず、どんどん次の文章に進ませました。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

文章の形になるまでがかなり大変で、担任の負担も大きかったです。担任が国語の教員であったことと
人数が19人と少なかったことで、続けられた部分もあります。お互いが読みあったり、統一テーマではなく、自分で書きたい記事を19人が探してくるなど、いろいろと広がる可能性があって、楽しく続けられました。

12．成果と課題

大学入試においては、面接や小論文で社説で取り組んだ内容と近いものが出題されることが多い。入試前に、読んだ社説や、それについての意見を考えたものが出題された場合、当日の試験日に有利であることは間違いない。しかし、社説自体は難解な語句も多く、生徒が理解しやすい内容と、そうでない物との差が大きい。